

くことができると実感できました。なぜならば、ダーウィンスクールオブビジネスのスタッフが皆協力的であり、もったいない運送について知らない生徒でさえも、とてもフレンドリーにこの仕組みを受け入れてくれたからです。

日本でもったいない運送の活動は、僕たちが動き出したことで活動が広まり、もったいない運送の活動をするソーシャルドライバーがPAグループの中にも徐々に増え、自然と広がっていきました。活動が自分たちのものだけでなく、一つの大きなネットワークとしての活動となりました。その中で僕自身も一人のソーシャルドライバーとして活動をし、いろいろな方に出会い、経営や社会貢献について勉強させて頂きました。そのような過程を踏んでいくせいか、僕からしてみれば、日本でもったいない運送は自然と広がっていったという感覚でした。

#### ■もったいない運送のインドでの広め方の試案

では、インドではどのようにして広めていくことになるかという、おそらく日本でもったいない運送の広まり方は違うと考えています。僕自身の役割もこれまでの学が側から教える側に変わります。インドで広めていくためには、まずは僕がトラックに乗って、もったいない運送を実施して見せることから始まります。さらに、実施していることがどういうことなのか？社会的にはどういう意味を持つのか？この活動がどのように経営に役立つのか？といった意義やミッションを、ダーウィンスクールの生徒たちにも英語で教えていかなければならないと思っています。



ダーウィンスクールオブビジネスのスタッフたち

#### ■今後の進め方

日本でも同じですが、もったいない運送のソーシャルドライバーは、ある地域で使われなくなったものを、他の地域で役立てるために、土日などの余暇の時間を活用し、実費程度でその地域間のトラック輸送を行います。そのため、僕がインドでもったいない運送普及も含めて起業するためには、平日の仕事も一方で持つことが必要です。僕の場合は、これまでトラックドライバーとして経験を積んできたため、インドでもそれを活かして、もったいない運送と並行して、運送事業を普段の仕事にできればと考えており、その部分についても今回は可能性を見出したいと思っていました。



まず、事務所はダーウィンスクールオブビジネスの中に作らせて頂き、住まいは今回滞在した寮に住むことができるため、食事なども不自由ないと思います。ただし運送事業での起業となると、荷主さんは誰になるのか？荷物はどんなものなのか？どういう会社形態になるのか？といったことは、まだまだ分からないことが多く、これから考えていかなければならない部分です。そしてそこは、ダーウィンスクールオブビジネスの理事長 Dr. Anirban Chaudhuri やスタッフに、インドの運送会社やその運送会社がどこの企業と取引をして、どのくらいの収入を得ることができるのか？ダーウィンスクールと取引がある企業で仕事を預けそうな企業があるか？日本から冷凍車の箱の部分のみを輸出し、キャンピングをインドでくっつけて冷凍車の市場が開拓できないか？あるいは、アッサム茶など、日本に送って売れそうな商品があるか？などを聞いて情報を集めたいと思っています。さらに、日本でもったいない運送を動かして、コミュニティビジネスを実践している組織を回り、インドでの平日の仕事に活かせるようなことがないかを探っていきます。

また、中古パソコンを日本からインドへ持っていき、リユースすることで、ネットカフェができないかも同時並行で調査していく予定です。目標として10台は持っていきたいと思っています。そして日本や世界から、僕が事業拠点にしようと考えているインドのアッサム地方 Guwahati にバ